

「センターニュース創刊号」アンケートのお礼と報告

広報専門委員会

センターニュースのアンケートにご協力いただきありがとうございました。寄せられた感想・ご意見は、今後の広報活動の参考にさせていただきます。

なお、質問・要望・コメントについては、以下に回答させていただきます。

【掲載記事についての要望】

- 計算・解析技法の解説記事をお願いします。
- 今、vpp5000を使って並列計算を行っていますが、初めプログラムを組む時にかなり苦労しました。少しずつでも、高速化に関するプログラムの知識等を掲載していただけると、ありがたいです。なかなか、数値計算の高速化を主に勉強している人はいないと思います。
- MPI並列プログラミング、Scalapackに関する記事を掲載してほしい。
- Fortran 77 とFortran 90の違いや、VPP5000のFortranでのベクトル化、及び並列化（MPI など）の技法を基礎から解説する記事を載せてほしいです。

<編集部からのコメント>

計算・解析技法、高速化、ベクトル化、並列化など計算をする上での基礎的な事柄の解説記事が望まれているようです。「計算する」という基本に立ち返って、ニュースの編集を考えていきたいと思います。

【講習会についての要望】

- 大型計算機の利用方法の進化が早くて追いついていけない者から、岐阜大学におりますと、UNIX系に計算機が移行してしまい、ほとんど計算機を使用したくても出来ない状態にあります。また、岐阜大学では計算機の講習会がほとんど行われておりません。名古屋大学情報連携基盤センターにおかれましては、UNIX、FLOW、AVS等の講習会を「頻繁に」開催して戴き、中部地域の大型計算機の基盤となって戴くことを切に希望致します。この点、京都大学の大型計算機センターの方が、講習会を頻繁に開催しているように思われます。

<編集部からのコメント>

講習会は、スーパーコンピュータ及び汎用コンピュータなどのシステム利用のための講習会とソフトウェア利用のための講習会の2本柱で年間15回程開催しています。

今年度は、これにネットワーク管理者向けの講習会を追加しています。UNIX講習会については、応募者が少ないため、「出前講習会」として人数がある程度そろったところで、センター側から出かけていく体制をとっていますが、残念ながら希望がありません。講習が必要になった段階で一度センター共同利用掛（メール：center@itc.nagoya-u.ac.jp）に声を掛けてみてください。できるだけご希望に沿うような形での講習会を考えていきたいと思えます。

なお、講習会の案内や申し込みは、センターのホームページをご利用ください。

【センターニュースの形態についてのコメント】

- 本来、貴センターの場合、本誌のような内容はHPで公開した方がふさわしいと考えます。ペーパーメディアによる情報発信はむしろ紙の無駄につながり、Networkがdownし、長期化した時などの緊急用に限定すべきと思えます。
- センターニュースも電子化（PDF等）すべきだと思います。

<編集部からのコメント>

センターニュースは、技術的なノウハウだけを掲載するのではなく、読み物としてもおもしろいものをもとて編集しています。創刊号のセンター長との対談でも言われているように、“送って読んでもらう”という紙のメディアのよい点をユーザの方たちとともに今しばらく、享受したいと思っています。センターニュースの電子化については、創刊号からPDF化しています。センターのホームページ（<http://www.itc.nagoya-u.ac.jp>）に貼り付けてありますので、ご覧ください。

【センターのサービスについての質問】

- MLを立ち上げることはできますでしょうか？

<編集部からのコメント>

センターでは、ユーザに対してメーリングリスト（ML）サービスを行っています。申請用紙がセンターのホームページ上にありますので、記入のうえ、共同利用掛まで送付してください。